

まつえアドバンス・ケア・プランニング普及啓発推進協議会委員で公民館代表の長澤委員は、地域住民への普及啓発活動にご尽力されています。この度、ACPについての活動や思いについてご執筆いただきました!

わたしの思いをつなぐノート(終活支援ノート)を手にとり見てみましょう!

松江市津田公民館
館長 長澤孝之

アドバンス・ケア・プランニング(ACP=人生会議)は、もしもの時に備え、病気やケガの治療に関することや介護に関すること、また自分が歩んできた人生とこれから希望する人生や相続・後継問題、葬儀・お墓のことなど医療介護に直接関係しないことなどについて自分で考えたり、ご家族・ご親族の方や周囲の信頼する人たちと話し合うことだと思います。



ACPに関する具体的な内容などについては、「終活支援ノート」に網羅されており、生涯の流れに沿って手順よく記載できるように構成されています。各公民館に配備されていますので、是非、終活支援ノートを手にとって、自らが考えたり、お盆やお正月など本人、家族が集まった時などに話して記録してみてください。そして、このノート1ページの「書こう、話そう、あなたの人生のこと」からはじめましょう!

私は、23年前、交通事故で生命を絶たれる寸前の事態になったことがあります。誰でも、いつでも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があることを痛感し、省みて、終活支援ノートの活用への取り組みを強くしました。

私は、まつえACP普及啓発推進協議会に公民館代表として参加しています。その関係で「終活支援ノート」の活用について、各公民館へは、社会福祉協議会、民生委員・福祉推進員さんの日頃の活動の紹介、なごやか寄り合い事業や地域のみなさまを対象にした講座の開催な



左：長澤館長 ～津田公民館終活支援ノートの講座の様子～

どをお願いしており、すでに活動を展開されている公民館もあります。津田公民館においても「終活支援ノート」の活用について講座を開催し、大変好評でした。

最後に、医療介護機関、公民館を含めた地域の福祉諸団体がそれぞれの立場で、つなぐ・つながる・つなげるRENKEI体制により、ACPがどこでも共通の話題となるよう、「終活支援ノート」の活用をはじめ、ACPの普及・啓発の推進に努めて参りたいと思っています。